

## 第三者意見



東北大学大学院環境科学研究科  
環境・エネルギー経済分野 准教授

馬奈木俊介 氏

今年度のレポートは環境・安全面での技術開発や対策を中心に丁寧に報告しています。「NIPPOの事業」において社会全体のイラストの中でNIPPOが都市のインフラストラクチャー形成に関わっているかを分かりやすく説明しています。

CSRに取り組む企業は、社会・環境問題などの改善につながるよう事業活動のプロセスを意思決定の段階から見直すことが重要です。そして、社会・環境問題などの改善につながるようなサービスを提供する必要があるといえます。CSRは経営戦略の性格をもつものであり、その実践にあたっては、長期的な企業価値を考えた付加価値の適正な配分を目的とするコーポレート・ガバナンスの枠組みで捉える必要があります。NIPPOは、中温化合材や遮熱性舗装の展開、都市ガスを利用した環境負荷低減型のプラント設置を通して、このサービス提供を続けているのだと理解できました。

また、環境における大きな目標であるCO<sub>2</sub>排出量の削減については、売上高にて除した値が6%削減と計画を

達成できています。石油などの多くの資源価格が上昇している中で、さらに相対的に優れたガス化の使用燃料の変更を積極的に進めることを期待しています。

今後、東日本大震災からの復興のためにインフラストラクチャーとして都市全体の設計を考えていく必要があります。その際、CO<sub>2</sub>排出量を削減する舗装、太陽光発電システム・燃料電池の設置を通して貢献していくのだと思います。課題が大きくなるほどそれを解決したときのその企業のやりがいが増やすこととなります。今回のレポートでは、大規模地震時に路面の段差発生を抑制するHRB (Hazard-Reducing Bed) 工法が紹介されていました。また、被災地に実際に資材提供や施工を行ったことも報告されていました。次年度の報告書では、ぜひ積極的に大震災復興支援としてどのような考え方で具体的に何を行ったか報告して頂きたいと思います。現在のこの重要な課題に対して、NIPPOがどのようにして「確かなものづくり」を通して社会基盤や産業基盤の形成に貢献しているか学びたいと思います。

### ご意見をいただいて

CSRレポート編集責任者  
環境安全・品質保証部長

吉塚 龍吉



馬奈木先生には、過大な評価と貴重なご意見をお寄せいただきまして厚くお礼申し上げます。

当社は、企業理念である「確かなものづくり」の実現

を目指してCSR活動に取り組んでおり、当社の持つ技術力を活かした環境貢献型の製品や事業プロセスで、循環型の社会構築に貢献しています。馬奈木先生のご指摘のとおり、今後は、東日本大震災からの復興が日本全体の大きな課題です。そこで当社が担える役割は大変大きなものであることを認識し、社会からの要請に耳を傾けながら、復興支援の一翼を担っていきたいと考えております。



### 私のCSR 関東建築支店 西浅草建築工事事務所 森林博幸

私たちの作業所では、役割分担を決め現場内の美化に努めるとともに、周辺道路の清掃を行っています。また、現場出入口に騒音振動計を設置し、工事騒音・振動状況を開示。近隣住民の迷惑低減のため全作業員の意識改革を図っています。東日本大震災では職長会提案で義援金を募り、日本赤十字社へ募金しました。